

2021年11月24日

東京学芸大学 ヒューマンライ ブラリー2021 報告書

オンライン開催

東京学芸大学ヒューマンライブラリー実行委員会 2021

(代表：岡 智之 (留学生センター))

目次

はじめに.....	2
開催案内.....	3
企画概要.....	4
・ ちらし.....	5
「本」のタイトル、あらすじ一覧.....	6
「本」との対話スケジュール.....	8
当日の写真.....	8
● 準備と当日までの活動.....	9
東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021 実行委員会 反省会議.....	10
グラフィックレコーディング（野月そよか作）.....	11
読者アンケート.....	14
「本」アンケート.....	20
読者の感想文.....	22
スタッフ感想.....	24

はじめに

2021年、東京学芸大学でヒューマンライブラリーを始めて、6年目になる。昨年に引き続き本年も、コロナ禍によりオンライン開催となった。日程は、初めて11月下旬の水曜日の16時～20時という時間帯に行った。昨年は初めてのオンライン開催で史上最大の数が集まったが、今年は本10、読者34、スタッフ7の計51名というアット・ホームな形で行われた。本はスタッフの紹介もあり、あらたに3冊の本が追加された。オンライン開催ということもあり、本もブラジルから参加したり、読者も沖縄、九州など遠い地方からも参加があり、オンラインのメリットを感じさせるものとなった。ただ、対面でやりたいという感想も多かったのも、今後、両方の利点を生かし、ハイブリッド形式でやれたらと思う。スタッフは、若干少なかったが、私の授業のフレッシュな学生が2人新たに参加してくれた。スタッフ紹介などで尽力してくれた江口さん、昨年に続きすばらしいグラフィックレコーディングを書ってくれた野月さん、ZOOM設定、ブレイクアウトルームの振り分けなどIT運営でお世話になりましたExplaygroundの金子先生、どうもありがとうございました。難民、セクシュアルマイノリティ、うつ、障害、海外留学など様々なフィールドの「本」が集まり、少数で読者と意見交換できるこのヒューマンライブラリーの意義は、このコロナ禍においても、重要な意義を持っていることが、この報告書の感想文などを見ていただけると理解していただけると思う。学芸大学のヒューマンライブラリーを引き続き、恒例の行事として、学内外に広めていきたいと考えている。引き続きのご理解、ご協力、ご参加のほどお願いいたします。

2022年2月22日

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021 実行委員会 代表 岡 智之

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021

開催案内

ヒューマンライブラリー（人間の図書館）とは

ヒューマンライブラリーは、お互い異なる文化的背景や身体、考え方をを持った人々を生きた「本」として迎え、「読者」との対話・交流を通じて、多様な生き方を認め合う、多様性に対して開かれた社会の実現を目指す試みです。2000年にデンマークで始まり、欧州を中心に北米、オーストラリアなど世界各国で行われています。日本では、2008年以来、駒澤大学、明治大学などの大学や様々な団体、個人により全国で行われ、東京学芸大学でも、2016年以来、5回ヒューマンライブラリーを開催しました。2017年には日本ヒューマンライブラリー学会が創立され、2018年に25名の実践者を著者とした包括的な著作も出版されました（下記参照）。ヒューマンライブラリーで「本」になってくださる方は、現在交渉中ですが、在日外国人、セクシュアルマイノリティ、障がい者、教育支援者など多種多様な方々を予定しています。なお、ヒューマンライブラリー開催理念から、本イベントはすべて非営利目的のボランティア活動です。「本」として、スタッフ（「司書」）として、また後援・協賛者として、本年もヒューマンライブラリーへのご協力をなにとぞお願い申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面とオンラインのハイブリッドで、本学学生・教職員、また地域の方も広く参加できるように、水曜日夕方より行います。

参考文献：坪井健、横田雅弘、工藤和宏編著『ヒューマンライブラリー：多様性を育む「人を貸し出す図書館」の実践と研究』明石書店、2018

記

- 開催日時：2021年11月24日（水）16時から20時まで
- 開催場所：東京学芸大学 N棟3階教室（受付 N313）
- 開催方法：対面とオンラインによるハイブリッド開催（感染状況によりオンラインのみになることもあります。）
- 主催団体：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021 実行委員会（代表：岡 智之）
- 連絡先：東京学芸大学留学生センター 岡 智之研究室（N棟2F）

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

Tel&Fax. 042-329-7235 e-mail: okatom@u-gakugei.ac.jp

企画概要

1. 企画理念・目的

- ・ 生きている「本」と読者との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指す。
- ・ 差別や偏見のある社会に対して問題意識を持ち、すべての人が平和に暮らし、お互いを尊重しあえる社会の実現を目指す。
- ・ 将来、教員、教育支援者になる学生が、マイノリティや多様性を学ぶ場として位置づける。
- ・ 大学構成員、地域住民と「本」となるマイノリティなどの方を結び付ける試みとして開催する。

2. 企画内容

在日外国人、セクシュアルマイノリティ、障がい者や教育支援者などに「本」として来ていただき、彼らの話を聞きたい方と引き合わせて、個人的体験などについて、約30分単位で数回話っていただく対話のコーナー（1人につき1～5人の聞き手）を作ります。講演などと違い、面と向かって自由に対話ができることがヒューマンライブラリーの特徴です。

3. 本イベントの主たる対象者

東京学芸大学の教職員、学生、そして地域住民をはじめ、基本的に、本イベントの趣旨にご賛同いただける方なら、誰でも参加できます。

4. 「本」としての協力予定者

現在、候補者をあげて、交渉の最中ですが、最終的に10～12名程度の協力者を確保する予定です。

5. 開催費用

準備過程での費用は、スタッフのボランティア活動によります。「本」としての参加協力者も、基本的にはボランティア参加を条件とします。ただし、交通費（程度の謝金）は主催者が用意します。

6. 開催費用の収集方法

協賛団体の協賛金・個人の寄付など。

7. 注意事項

ヒューマンライブラリー開催の理念により、特定団体の宣伝や営利目的で開催することはできません。従って、本イベントも営利目的や宣伝目的での参加はご遠慮願います。

協賛金寄付のお願い

本企画はすべてボランティアによって行われ、運営費を協賛金寄付によってまかないます。皆様方におかれましては、本イベント開催の意義にご理解いただき、協賛金寄付にご協力いただければ幸いです。なお、協賛団体名等は、当日配布のプログラムに記載し、後日、開催成果報告をさせていただきます。よろしくごお願い申し上げます。

記

寄付金額： 団体の場合（1口2万円） 個人の場合（1口2千円）

寄付いただきましたら、受領証をお渡しします。

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2021 オンライン開催



東京学芸大学 playground ラボ

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティ、教育支援者など、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に関われた社会の実現を目指すイベントです。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催となります。生きた「本」のタイトル、あらすじは、本ちらし 2, 3 ページにあります。4冊まで本を借りられ、30分ずつお話しできます。下記予約フォームで希望する「本」を予約してください。ZOOMのリンク先をお知らせします。

日時：11月24日（水）

16:00～20:00 ZOOMによるオンライン開催

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021 実行委員会（代表：岡 智之）

後援：小金井市教育委員会、小金井市社会福祉協議会

協賛：東京学芸大学教職員組合

問合せ先：東京学芸大学留学生センター 岡 智之 okatom@u-gakugei.ac.jp

予約フォーム：<https://forms.gle/czxyQiDScXbsqeZk9>

申し込み締切：11/16（火）まで。定員が埋まり次第締め切ります。先着順で一回のセッションの「本」一冊につき、5人まで一緒に参加できます。

・ちらし

「本」のタイトル、あらすじ一覧

* 下記の「本」を4冊まで借りられ、30分ずつ対話できます。

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
長谷川 留理華	ロヒンギャ 系日本人	迫害にもいじめ にも負けないか ら今ママになれ た	私はミャンマーのアラカン州（ラカイン州）で生まれたロヒンギャ民族で、3歳までアラカン州に暮らしていました。父はアラカン州の公立学校で高校教師を務めていました。1988年、ミャンマー全国で暴動が起き、たくさんのロヒンギャ民族が拘束されたり、殺害されたりしました。その後、私が暮らす村にも、軍が父を探しに来ました。ロヒンギャの教師はほとんど拘束されました。父は国内で身を隠すのは限界があると考え、日本へ行きました。その後の人生について。
中嶋秀 昭	難民（世界 の医療団）	ロヒンギャ難民 の状況と彼らへ の支援	ミャンマー北西部に住んでいる主にイスラム教徒のロヒンギャの人々は長年、政府から迫害を受け、隣国バングラデシュ等に逃れてきましたが、特に4年前の2017年8月25日に始まった軍による攻撃・殺害により70万人以上がバングラデシュに避難しました。現在、面積が約12km ² （東京都千代田区ほど）の難民キャンプに90万人近くが住んでいます。最近の難民の状況やミャンマー情勢との関連、私達の彼らへの支援等につきお話しします。
ミルオ ン (当日欠 席)	ベトナム 語・日本語 講師	キャリアウーマ ンの子育てしや すい環境を考え てみよう	私は2000年に国費留学生としてベトナムから来日、日本語学校、専門学校、大学で、合計5年間日本語を学んだ。日本は発展国で、何でもあって、本当に便利だが、子育てと仕事を両立したがる女性の立場から見ると、実現しにくい国だと思う。子供の数が減少していくのに、保育園が足らなく、優先順位より順番待ちの状態、入園申請の手続きは複雑で面倒だ。女性が独りぼっちで子育てしているようで、精神的な病になりがちだ。キャリアウーマンに対して子育てしやすい環境をつくってほしい。
ひらり	LGBTQ	トランスジェン ダー女性 レズビ アン（「T」且つ 「L」）の苦悩	「体の性が男性で恋愛対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚も子作りも可能な私。しかし、トランスジェンダー女性「T」且つレズビアン「L」といった複数のマイノリティ性をあわせ持つダブルマイノリティの存在やニーズが世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、生活場面では一人で思い悩むことも多々あります。
むねぞ う	セクシャル マイノリテ ィ	ゲイとして生き る - ごく普通の 日常を語ります	みなさん、はじめまして。都内で花屋を営んでいます、40代男性です。今よりもゲイについての情報が少ない時から自分の性指向を認識して生きてきました。思春期はそれを否定することなどで悩みましたが、今は毎日パートナーと猫とともに家族として普通に楽しく暮らしています。両親にはカムアウト出来ずにいますが、姉弟と、何人かの友人にはカムアウトしています。 今回はそんな僕の思春期の話、家族との話、正しい情報を知ることの大切さなどを話していきたいです。僕の日常が皆さんの参考になれば

			幸いです。皆さんとの対話も楽しみにしています。よろしくお願いいたします。
畑野と まと	トランスジ ェンダー	トランスジェン ダー問題	世界中に吹き荒れる反トランスジェンダーの実態についてお話しします。
小山祐 介(コヤ)	うつ病当事 者	なりたい自分になれなかった君へ〜かこと、いまと、これからと〜	夢も希望もないまま就職、システムエンジニアとして勤めていた24歳のとき、残業100時間以上の超過労働、常駐先のパワハラが引き金となって鬱を発症しました。10回近く転職、たくさんの人に手を差し伸べてもらってアートやエンタメの活動をしていたところ、実体験を活かした起業の機会をいただくと、挫折。うつ病当事者でありながらも自立訓練施設職員として働くいまだからこそ、気づき、話せることの全て、お話しします。
いくみ	肢体不自由	障害者の生活について	両上下肢に重度障害を持って生まれた自分の学生時代から今までの話。小学校、中学校は、地元の公立校に通い、高校は特別支援学校へ進学。特別支援学校を卒業後は、一般企業に就職し、現在もフルタイムで就業中。普通校と特別支援学校の違いや普通校を選んだ理由、特別支援学校を選んだ理由、先生方や友人達との関係などの学生生活や社会人になって感じた事など話せればと思います。
大谷重 司(おお たにじ ゆうじ)	視覚障がい	ベンチプレス世界チャンピオンの実態	1. 現役の健常者チャンピオンは眼が見えない63歳の男です。今年の3月の全国大会でも健常者の試合で優勝。 2. いろんな場面で視覚障害者は世間から分離されています。図書館でも点字図書。スポーツをするにも障害者専用のスポーツセンターがあります。その実態に疑問を持ち続けていました。 3. 町内でのスポーツジムへの参加。これだけで喜びは完結していました。 4. 可能性を見つけられたこと。限界を捨てることの意識の変化。
山口 通	全盲の元高 校教員	中途失明—— コミュニケーションは光	① 失明→職場同僚の力、リハビリテーションの力、家族の力、音訳ボランティアの力→職場復帰へ ② 障害という言葉から、そろそろ卒業しませんか。
マリエ	教育キャリア 支援	ラグビーと留学・海外生活の すすめ	小学生の時、タグラグビーに出会い、高校生の時から女子ラグビー日本代表として選出され、海外留学先でもクラブチームで女子ラグビーをしていました。2016年リオデジャネイロオリンピック、女子ラグビーにも出場しました。現在はブラジル南東部にある都市サンパウロでパーソナルトレーナーと子育てをしながら、日本の教員養成課程も受講中です。ラグビーを通して得たこと、海外生活、引退後のキャリアの話など、皆さんと一緒に話していきたいと思っています。

「本」との対話スケジュール

① 16:10- 16:40	② 16:50- 17:20	③ 17:30- 18:00	④ 18:10- 18:40	⑤ 18:50- 19:20	⑥ 19:30- 20:00 (全体 交流会)
長谷川	長谷川	長谷川	—	ミルオン	ミルオン
山口	山口	大谷	—	大谷	大谷
大谷	—		いくみ	いくみ	いくみ
—	むねぞう	むねぞう	むねぞう	—	むねぞう
	—	ひらり	ひらり	ひらり	ひらり
小山	小山	—	小山	小山	小山
		マリエ	マリエ		
中嶋	中嶋	—	中嶋	中嶋	中嶋
—	畑野	畑野	畑野	—	畑野

当日の写真

当日は、N313 にスタッフ 6 人が集合、視覚障害者の山口さん、大谷さんを介助、サポートしながら、オンラインの運営をすすめた。



N312 で山口通さん



大谷重司さん



● 準備と当日までの活動

- ・ 7月27日(月)昼休み 実行委員会準備会 Microsoft Teams Web 会議
スタッフの参加 岡、安井、江口、野月、金子
日程とオンライン開催の決定、「本」の選定
- ・ 8~9月 本との打合せ、後援団体（小金井市教育委員会・社会福祉協議会）、協賛団体（大学教職員組合）の決定など
- ・ 第1回実行委員会：2020年10月27日（水）昼休み Microsoft Teams Web 会議
参加者： 岡 智之、江口典子、野月そよか、金子先生
当日スケジュール、宣伝方法などについて話し合う。
- ・ 10/29(金) グーグルフォームを使った WEB 申し込みを開始。学芸大学ホームページ、学芸ポータル、facebook、異文化間教育学会 ML など で宣伝。
- ・ 11/17（金）18-18:30 スタッフ、「本」との打ち合わせ、（岡 智之、近藤聖子、江口典子、金子先生、鈴木郁絵、ひらり、小山、いくみ中嶋、畑野 ）自己紹介、当日スケジュール確認
- ・ 11/24（水）16-20 ヒューマンライブラリー開催
- ・ 12/1（水）昼休み 反省会議（岡、江口、野月、佐野）

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2021 実行委員会 反省会議

日時：2021年12月1日（水）12:00-12:50

参加者：岡、江口、佐野、野月、鈴木、近藤、金子（下線出席者）

1. 参加者 総計 51 名 読者 34、本 10、スタッフ 7

- ・読者内訳：一般 15（教員 5、他 10）、学生 19（学芸大生 12（留学生 4）、他大学 6、高校生 1）
- ・何で知ったか：友人・知人・先生からの紹介 13、学会 ML5、学内ポータル 11、Web 情報 8（facebook、大学 HP）、小金井市報 1

★ 去年に比べると参加者数は減少した。オンライン形式になれたからだろうか。

2. 日程、オンライン開催について

- ・今回は、初めて水曜日の 16 時から夜という時間帯にやった。学生にとっては授業のない時間帯なので参加はしやすいのではないかと思う。ただ、一般の人は夕方からの方が参加しやすいかと思う。
- ・オンライン開催という点で、海外や沖縄、遠方からの参加もできたというメリットもあった。
- ・昨年と比べると社会人の参加が少ない。やはり夜の時間帯の方が社会人にとってはよい。

3. 「本」の設定について

- ・今回新しい本が 3 冊（むねぞう、マリエ、中島）開拓できた。マリエさんの読者が少なかったので、宣伝の工夫が必要。
- ・やる前の司書の働きかけが重要。本との打ち合わせなど密にやるのが必要。
- ・新しい本を開拓していく。

4. 広報・宣伝について

- ・学内ポータルや学会の ML から結構来ていた。学芸 HP やツイッターにも入れたのでそこから来てくれた人もいる。小金井市報で来た人もいるので効果は少しはあるよう。
- ・やはり、先生、知人の紹介で結構来ている。口コミも重要である。

5. 当日の運営について

- ・スタッフが今回は 5 人と少なかったため、全部の回に入れなかった。長谷川さんから最後の回にスタッフがいなくて困ったと感想があった。オンライン開催での各種の不具合は今回はあまりなかったようだ。
- ・N313 の電波が良くなかった。

6. その他

7. 今後の予定

- ・報告書の作成 スタッフの感想文、野月さんの GR（大谷、山口、むねぞう、マリエ、畑野）
- ・録画の公開。
- ・来年は、通常開催に戻すか（日曜平日）？対面＋オンラインも可能にするか。
- ・春学期に、小さい規模でヒューマンライブラリーをやる。スタッフの慣れも必要。

はじめた女子好きにハマった市...

この気持ちには「あこがれ」

「あこがれ」にしておかなくて、自分ほつツウじゃない

自分で自分を思い込める

異性で付き合っただけ...

あれ、思ったより思わなかった

大学生のとき、女市にカミングアウト

今ほろオオで出会った男性がパートナー

一緒に性で15年

安心した

自分が言わなかったことを言ってくれて...

親にはまだ言えていない...

「君も言ってくれよ」

「君も言ってくれよ」

むねぞうさん

花屋・性的マイリテ

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2021 オンライン開催

東京学芸大学 explayground ラボ =

2021. 11. 24 WED 16:00-18:00
Graphic Recording 野月そよか

2019年引退!

やりきった!

何が新しいことを...

結婚 子育て 指導者

「自分で幸せをつくる」

保健体育の教員に習った勉強

ラグビーによってねばり張る・体力

「過去の自分を捨てる難い」

ゼロにする難い

ゼロのこと言わぬ

ラグビーは始める



はじめての留学

文化 + ラグビー + 留学したい!

高校卒業後

オーストラリアへ留学

帰国後

オーストラリア セミナ

ラグビー

リオデジャネイロ

オリピック 出場

日本代表!

海外にあって日本にないもの...

愛情表現 身につけて考える

真理恵さん

元ワム判ラグビー選手

現在...

在宅でマッサージ & バンキウス!

バンキウススタート

健康に有効!
はじめては大人は20分ほど...
トリコ大会で金!



24才の時に目が見えなくなった



町内のスポーツクラブに入れなう
ボウ...
フラッグスポーツ
には適任...



視覚障がい / バンキウス選手

東京学芸大学

ヒューマンライブラリー

2021 オンライン開催

= 東京学芸大学 playground ラボ =

2021. 11. 24 WED 16:00-18:00

Graphic Recording 野月さよか

低抗が無心 / パーバレルとの出会い 55才

障害者・健常者・年齢
関係のな空間



最高155kg

バンキウスの大会では...

障害の有無
君は何を知りたいの?!



仕事でめろ
しかたがよ...



網膜色素変性症
失明

職場復帰
できるよ!



「リハビリテーション」

黒板の使い手 / マグネットの使い手 / 動画を使いこなし...
図形の書き手 / 文字の書き手 /



授業準備大変!



今、こんなシーン...



山ロさん

視覚障がい / 元教員

「時間」が... 授業も自由自在!

これもできる
あれもできる



あれもやってあげよう
これもやってあげよう

トランスジェンダーとは...

生まれたときの性別とは異なる性別で生きたい人たちが

世界中の
LGBTQの活動へ

1969

アメリカNY
LGBTの抗議

ゲイ・
トランスジェンダー
逮捕が続く...

同性婚

ex) レイボ-プライド

性別変更

数少ないけれど
目立つ

トランスジェンダー

1970

1973

レズビアンフェミニスト会議

副代表として
トランス女性

女性とは
認められぬ!

トランスジェンダー
の人権を認めたい!

トランスジェンダーの人権を認めたい!

中には、犯罪者とも
出てくる...

女子トイレで
犯罪が起る
のでは?

部分的なもの
指摘して批判

公衆浴場は? いるの?

運営側が考えほしい!!

居ても超少数、
トランスジェンダーだけに
言えることではない

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2021 オンライン開催

= 東京学芸大学 explayground うぽこ

2021. 11. 24 WED 16:00-18:00

Graphic Recording 野野とま

トランスジェンダー
が生きづらい
社会

自殺率高い...
昔は日本は
男女別を
小まかく区別して



野野とまさん
トランスジェンダー活動家



トランスジェンダー
の人権を認めたい!

中には、犯罪者とも
出てくる...

女子トイレで
犯罪が起る
のでは?

部分的なもの
指摘して批判

公衆浴場は? いるの?

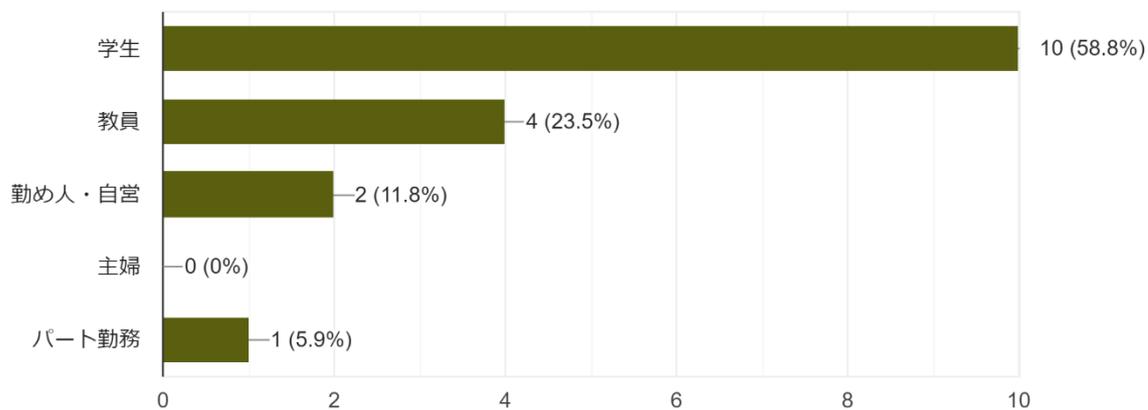
運営側が考えほしい!!

居ても超少数、
トランスジェンダーだけに
言えることではない

読者アンケート

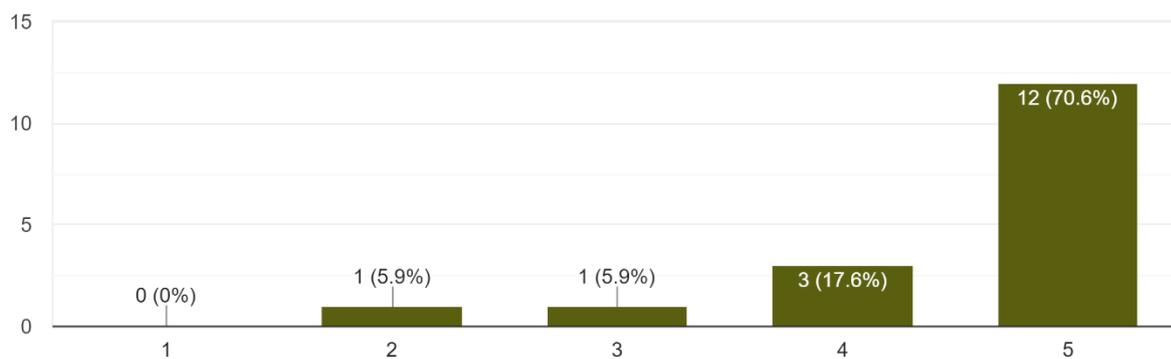
職業等をお聞かせください

17件の回答



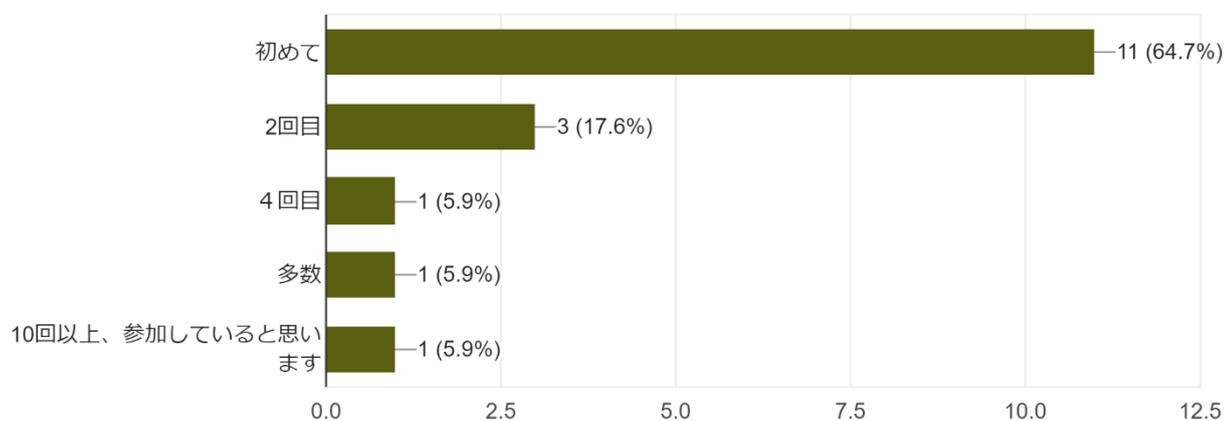
イベントにはどのくらい満足されましたか。

17件の回答



ヒューマンライブラリーは何回目ですか

17件の回答



今日読んだ「本」との対話から感じた気づきや感想、あるいは「本」へのメッセージ

<長谷川留理華さんへ>

・長谷川さん 本日は貴重なお話ありがとうございました。私はこれまで何度かヒューマンライブラリーに参加したことがあるのですが、長谷川さんのような外国人の方からお話を聞くのは今回が初めてでした。どうして日本にやってきたのか、また日本の生活で不便なことなど様々なことについて、今まで知らなかったことをたくさん知ることが出来ました。特に印象的だったのは「これから改善してほしいことを大学生によく伝えている、なぜならその学生たちが今後の日本を変えていくからだ」と仰っていたことです。私も一大学生としてはっとさせられました。そして学生の私が今できることは、長谷川さんのような日本におけるマイノリティの方からお話を聞き、自分の視野を広げることなのだと思います。私の大学のゼミでもヒューマンライブラリーを行なっていますので、長谷川さんにもぜひ参加していただけたらと強く思いました。本日は本当にありがとうございました！

・中学校でどのようにいじめが起こるのかがとても参考になりました。

・ネットやメディアからだけではぜったいに知る事のできない、貴重なお話をありがとうございました。生の声の持つ力を感じ、知る事の大切さを教えられました。「同じ地球をシェアしている人間として」という言葉が印象に残りました。考えさせられることも多く、「小さな感染症」は確実に長谷川さんから広がっています。

・長谷川さんのお話は非常に理路整然としていて、圧倒されました。無国籍のため大学進学ができなかったこと、大変理不尽に感じました。国籍とは何かを考えさせられました。

<中嶋秀昭さんへ>

・中嶋さん／難民支援活動をされている方から実際話を伺ったのは初めてでした。活動を通して感じることや課題・難民の方々の声を紹介していただきとても勉強になりました。わたしも外国人との共生に興味があるため、貴重なお話でした。一般的に“難民”・“キャンプ”など聞くと遠くて関わることはない世界の話と捉えられてしまうかと思うので、中嶋さんのような方が今回のように声で伝えることはとても意義があると思います。私としても、じかに触れることのできない難民の方々に、今回は一番近づけた経験となりました。

・ニュースで視聴していたロヒンギャの方々の様子がわかり、身近に感じました。

<ひらりさんへ>

・TとLの両方の方の生き方というものを初めて知りました。人間ってほんと一人一人違うし、多様性があるからいいのだなと思いました。また、アイデンティティーは性別だけではなく、職業や特技などなど、いろいろなところに感じるもので、性別を超えた生き方の自由さにも気づけました。

・ひらりさんの話では、わかってくれる親友がかけがえのない存在だと深く感じました。本当の自分ではいられるから。それから、自分がトランスジェンダーかどうか気づきにくいので、学生時代からそういう教育をしたほうがいいかということも考えさせていただきました。

・ひらりさんにお話をお伺いしました。質問形式でお話をお聞きさせていただく形だったため、自分自身が気になっていたことをたくさん聞けました。お子さんへのカミングアウトが赤ずきんちゃんのようなお話がすごく面白く、すごく納得させられるものでした。性別変更に必要な要件がいかに人権を無視しているのかということが学べました。ひとり親、セクシュアルマイノリティ、パートナーによる子への虐待とう様々な困難を同時に抱えているひとがいるんだということ、直接お話を伺って学ぶことができたのがすごく貴重な経験だったなと感じています。体の性に関係なく素敵なママとして子育てをしている

という姿にすごい魅力を感じました。閉会後もたくさんのお話を聞かせていただき本当にありがとうございました。

・初めて MtoF のレズビアンのかたのお話を伺うことができ、具体例をあげてお話くださっていままで理解しにくかったことが以前よりわかりました。お仕事や子育てのお話をぜひまた機会があれば伺いたいです。

<むねぞうさんへ>

・むねぞうさん／途中入室となり、前半を聞きそびれてしまいましたが、途中から参加しても引き付けられるような明るさのある方だなあと感じました。印象的なことは「マイノリティーやマジョリティーは、環境が変わればすぐ入れ替わる視点だ」とおっしゃっていた事です。その通りだと感じました。だからこそ、そこにフォーカスを当ててもあまり意味はないのだと思いました。（マジョリティーだから良い、マイノリティーだから弱い、ではない。）全体から見てそう見える、というだけで、大切なのは世界から見た視点ではなく、本人の心から見た世界だと改めて感じさせられるお話でした。すてきな生き方をされていて、いいなと思いました。

・むねぞうさん、本題とは逸れますが、とても素敵なお花屋さんを経営されていらっしゃるのですね。いつか伺いたいです。

・（むねぞうさん）セクシュアリティに関することがそれほど重要ではない、それは自分の一部ではあるが本質ではない、人としてどうあるかの方が重要だと思う、というお話がとても印象に残りましたし、励まされました。誰でも自分の中に何か他の人にはあまり見られない珍しいパーソナリティを持っていると思いますが、珍しいばかりにその部分に注目しすぎてしまって、その人自身を見なくなる、ということはどんな場合でもよくあることだと、今回改めて気づかされました。「ごく普通の日常」とタイトルでお書きになっていたむねぞうさんの考え方がよく伝わってきて、お会いできてよかったと思いました。お話して頂き、ありがとうございました。

・むねぞうさん 本日は貴重なお話をありがとうございました。私は、これまで周囲の人から LGBTQ であることをカミングアウトされたことがなく、本や動画でしか当事者の方のお話を聞く機会はありませんでした。しかし、今回むねぞうさんのお話を伺う中で、LGBTQ がとても自然で普通に感じました。特に、仕方なく異性と結婚しその後も同性と付き合いってしまうのは、不倫や浮気でありよいものではない、というむねぞうさんの言葉をお聞きしたときに、むねぞうさんの誠実さを感じるとともに、同性愛者の方にとっての恋愛は同性に対してしかありえないということを改めて感じ、そのような事実を当たり前のこととして受け入れました。また、マジョリティーとマイノリティーの立場は流動的というお話も印象に残っています。振り返ると自分自身も時にマジョリティーであり時にマイノリティーとして生きづらさを感じたこともありました。だからこそ、自分がマジョリティーの立場にあるときには、マイノリティーの時の自分を思い出し、自分の中の差別や偏見の思いに気付けるようになりたいです。

・むねぞうさんのお話をお聞きさせていただきました。私自身が、パンセクシュアル当事者として、カミングアウトに関して研究しているのですが、むねぞうさんのお話を聞く中で、カミングアウトをしたくてもできないという環境ができてしまっている要因について学ぶことができました。家族へのカミングアウトに関するお話であったり、「うらやましいと感じる対象の方はそれだけの努力をしているから、うらやましいと感じないが、お友達の結婚式で羨ましいと感じた」というお話がすごく心に残りました。特に、当たり前のように結婚出来て、当たり前のようにそれを周囲に祝福してもらえるとということすらもセクシュアルマイノリティーであるがゆえに、当たり前には得られない幸せになってしまうというこの環境がすごく寂しいものだと感じました。むねぞうさんの優しそうな雰囲気と話し方、素敵でありとても学びになるお話を聞けてすごく楽しい時間を過ごさせていただきました。

・ゲイについての正しい知識を手に入れられた（どう書けばよいか分らなかった）。とても心にくる話でもっと聞きたいと思った

<畑野とまとさんへ>

・トランスジェンダーの方などへの理不尽な差別が想像以上にあることが分かり、思わず涙してしまいました。貴重なお話をありがとうございました。

・畑野さんの話を聞き、LGBTQ+を分断させることで反トランスジェンダーの動きを強めようとする人がいるということにすごく驚きました。そしてそのよううごきに乗ってしまう人がいるということは、セクシュアルマイノリティのなかでも差差別や偏見というのが存在しているということなのだと言われ再認識させられました。トイレであったりお風呂であったり、スポーツの大会であったりと性別ということが大きく取り上げられ、トランスジェンダーを認めることを否定する理由として掲げられやすい事柄に関してもご意見を聞くことができ、すごく学びになりました。貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

・性同一性障害、と一口に言えない違いの中で、軋轢がある、人間のサガを感じました。我々自身も様々な集団に属して、優越感や劣等感を感じつつ生活していることを思い起されました。

・トランスジェンダーについての理解が深まりました。

<小山祐介さんへ>

・小山さん、お話を伺えて良かったです。

（こやまさん）日常生活で困ることは何かという質問があったときに、「世間的なうつ病のイメージに自分を合わせなきゃいけない」と思うことがつらい、とおっしゃっていたことが印象に残りました。確かに、「うつ病だから」に続く言葉が配慮に繋がることもあれば、一方で思い込みに繋がることもあると思います。自分が無意識に相手を自分のイメージに当てはめようとしていないだろうか、考えさせられました。また、今の広まりつつある社会制度を「きれいごと」とおっしゃっていたことも、本当にそうだと学ばされました。もちろんそういう制度的な面で「〇〇な人が生きやすい社会に」みたいに整えることが重要なのは確かですが、どんなに外枠を整えても、中にいる個人としての私たちがそう思っていないければ意味がないのだと思いました。それは制度化が進んでいる現在だからこそ意識しなくてはいけないところだと思います。お話ありがとうございました。

・うつ病という過去をしっかりと受け止めて人生を歩まれていることに感銘した。自分の病気に自分が甘やかされないようになさっている姿は見習いたい

・うつ病とふつうの悩みとの違いを当事者から聞くことが出来たのは嬉しかった。

・小山さん 本日は貴重なお話をありがとうございました。自分を自分で認められるようになるために積極的に行動されている小山さんの姿に感銘を受けました。私はまだ、フルパワーで頑張っている自分でないと認めることができないのですが、小山さんがおっしゃっていたように、現在の自分をよく理解して、スモールステップで進めるようになりたいです。そして、ありのままの自分を受け入れられるようになりたいです。

・「うつ病」について、いろいろ教えてくれました。夢についての考えが少し変わっています。どうもありがとうございます。

・鬱の原因、症状、克服の過程、鬱の方への接し方など、当事者目線のお話が聞けて、大変有益でした。経験者だからこそできる支援や職業があるのだなと感銘を受けました。

・小山の話では、うつ病になったのは人間関係が築けなくて、心のお話をする人がいなかったからだそうです。すごく同感しました。人間というのは一人では生きていられないものだから、人と話すことで、友達が

できて、家族とより親しくなって、知らない人とコミュニケーションできてこそ、人と絆ができて、この世界と結びついて、心も人生も豊かになってくると思っています。

- ・小山さんのお話は、日頃こんなこと聞いてもよいのかなと思っっている事を自ら話してくださったので、うまく言えないのですが、とても心に密着した言葉として感じました。人は一人で生きるのではない事や、親子の関係など、お話を伺いながら、自分の人生や、自分の子育てに重ね合わせる事が多かったです。「あたたかい無視」参考になりました。

- ・小山さん。お話を聞いて、きっと色々話したいことやりたいこと知りたいことがある方なんだろうな、と感じました。自分を認めたいとおっしゃっていたのが印象に残っています。誰しもがそう感じているとも思うし、私もとてもそう思います。共に、急がずゆっくり、自分をみつめながらか生活する時間を重ねていきましょう。きっと少しずつ楽しいことが増えていく気がします。

<いくみさんへ>

- ・いくみさんに、時には自分を無理にさせないことは大事だと気づかせていただきました。
- ・障がいのとらえ方について改めて考えました。障がい（と思われる、こちら側が思う）を認識するとそれを基準に対応を考えてしまう。もっと相手の方本人の素のままを受け入れていきたいと思います。

<大谷重司さんへ>

- ・大谷さんに、障害の人に対等的な扱いをするのは大事だということに気づかせていただきました。
- ・パワーリフティング、バリアフリー、共生社会のツール。驚きや共感がいっぱいのお話でした。

<山口通さんへ>

- ・視力を失われてから、国立リハビリテーションセンターで職業訓練をされ、再度教職に復帰されたお話、どれだけ努力をされたかを思いました。快活なでわかりやすい語りにも引き込まれました。
- ・目が見えなくとも教師をやられていたことにびっくりした。文字を書くのにも磁石を使うなどすることで、健常の教師と同じ役割が担えることは新たな発見だった

<マリエさんへ>

- ・マリエさんのお話は良い意味で予想を裏切るお話で、ヒューマンライブラリーがなければぜったいに出会えなかった人だと思いました。過去を捨てる勇氣、すごいです。エネルギーをいただきました。もっとじっくりお話を伺いたいと思いました。「海外に愛がある」のお話、シンプルですが深いです。
- ・日本には「愛」がないという発言は不意を突かれたが、その意味がはっきり分かった。日本は島国であることもあるのか、とてもクローズな親近感であることは海外に行ってみないと分からないものだったから、今回の話は貴重だった

<全体へ、不特定>

- ・物事の新しい考え方や捉え方などに多く刺激を受けたり、共感できる場面があり、とても深く濃い時間になりました。満足のいくところまでお話しできて本当に良かったです。遅くまでありがとうございました。またお話しできたら嬉しいです。
- ・具体的なことが色々聞けて、意義深かったです。
- ・幸せそうで、充実した人生のようで、話していて安心感がありました。
- ・新しい多文化共生のヒントを得たと思います。
- ・「本」の方の自分に正直に生きていらっしゃる姿勢に圧倒されました。

- ・Q&A形式だったのがよかったです。
- ・身体と心の性の不一致ということについて納得がきました。

イベント運営やスタッフの対応はどうでしたか、何かご意見がありましたらお書きください。

- ・そばにいてくださり、安心して参加できました。
 - ・もう少し休憩時間を長めにとっていただけるといいと思います。
 - ・スタッフの方がトークを回してくれたのが、とてもありがたかったです。質問がすぐに思いつかなかったときにしーんとなってしまうのを助けてくださって、ありがたかったです。
 - ・スタッフさんはみんな親切に案内してくれて、初めでの参加でも心強かったです。ありがとうございました。
 - ・スタッフが少ないようでしたが、ありがとうございました。もし機会があれば今度はスタッフ側で参加させていただければと思います。
 - ・お疲れさまでした。
 - ・すごく貴重な経験をさせていただけたこと、心より感謝申し上げます。沖縄という遠い場所からの参加だったため、オンラインというかたちで開催していただけたことが本当にありがたかったです。
 - ・貴重な機会を作ってくださいありがとうございます。
 - ・初めて参加させていただきましたが、自分の日頃の生活では巡り会えない本の方々との機会を設けていただき、お話を伺うだけでなく質問もできて、本当に贅沢な時間を過ごす事ができました。もっと沢山の本の方のお話を伺えればうれしかったです。
 - ・17:30-18:00 長谷川さんのルームに、スタッフのかたがいらっしやいませんでした。長谷川さんは戸惑いつつも進行役も兼ねてお話くださいました。もちろん何事もなく和やかに終わりました安全性の面からも少し心配な時間帯でした。(何度かヘルプを出させていただいたのですがうまく伝わらなかったようですね)
 - ・よかったです。スタッフの方々もきっと今回のイベントを開催する目的を強く感じていらっしやるのだろうな、と感じさせるような、皆さんの愛情を感じるイベントでした。
 - ・優しい対応で、話しやすい雰囲気をつくってくださり参加しやすかったです。企画してくださりありがとうございました。
- 進行がとてもスムーズでした。

イベント全体についてのフィードバックがございましたらご記入ください。

- ・大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。機会があれば、ぜひまた参加したいです！
- ・多種多様な本の方がいらっしやって、とても魅力を感じました。もう少し説明を詳しくしていただけるとありがたかったです。(私は第1セッションのみの参加だったのですが、セッション終了後にすぐに zoom を退出していかわからなかったのも…)
- ・最初の挨拶(16時からのもの)と最後の全体会には全員参加してよいのか、それとも本のと時のように予約が必要なのか明記してくださるとわかりやすかったと思います。
- ・すごく楽しかったです。もっと本を読みたいです。今回も参加させていただければと思います。本当にありがとうございました。
- ・オンラインという関係上バタバタしていたところもありましたが、特に問題なく円滑に進んでおり楽しく過ごせました。ただ、時間が夜分になってしまうのが難点ですね。オフラインで行っていたように日曜日の昼間とかにオンラインとのハイブリッドでやっても面白そうですね。

・久留米大学のヒューマンライブラリーを主催しています。今回、畑野さんとひらりさんとお話しでき、来年度のヒューマンライブラリー@久留米大学でも本になっていただきたいと思います。可能ならばお繋ぎいただければと思います。

・当事者の方のお話を聞くことのできる機会がとても貴重だと感じました。また、お話を聞かせていただくだけでなく対話できたことで非常に有意義な時間となりました。ありがとうございました。

・本当に貴重な経験をさせていただけたと感じています。いつか自分自身のセクシュアルマイノリティ当事者という立場を活かして本という立場でお話しできるようになりたいと感じました。そのためにもより学び人に話せるだけの知識を身につけていこうと強く感じました。

・「ベトナム語・日本語教師」の方の「本」を読まないのが残念だと思います。

・できれば、対面とオンライン双方使っての実施ができるといいな、と思いました。

・貴重な体験となりました。zoomならではの、よい距離感もあったように思います。ハイブリッド型もできたなら、また楽しいだろうなと思いました。次回も参加させていただきたいです。ありがとうございました。

・貴重な機会をいただき、岡先生はじめスタッフの皆さまに心から感謝しています。日常生活では出会えない方々のお話が伺えて視野が少し広がったと思います。また機会があればぜひ参加したいです。

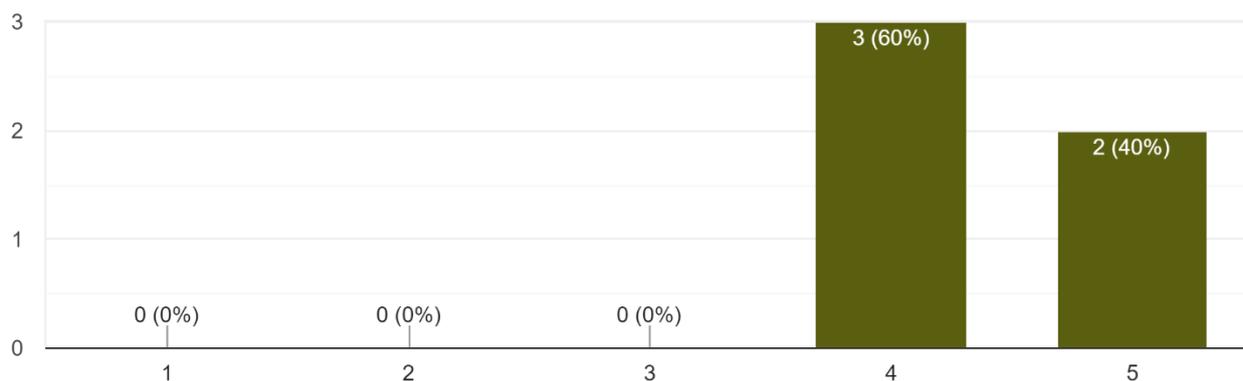
・とても楽しく貴重な時間となりました。ありがとうございます。開催数日前に偶然にも市報（普段読まないことが多いにも関わらず）にて本イベントを知りました。わたしは普段から様々な人と話すことを大切にしている上、最近は特に会ったことのない人と話がしたいと強く感じていました。そのこともあり、偶然今回参加できたことにご縁を感じています。学芸大学ヒューマンライブラリーが、今後も運営される皆様の想いが受け継がれ継続していくと嬉しいです。

・時間が少し短くて、あまり質問ができませんでした。

「本」アンケート

イベントにはどのくらい満足されましたか。

5件の回答



本日の「本」としての感想はいかがですか。読者とうまく対話できましたでしょうか

・1回目よりは2回目の方がスムーズに話せました。読者の方とも対話でき、より深く話の内容について話し合えました。

・気付かされるような質問もあり、とても満足した対話ことができました。

- ・バタバタしましたが、何とかできたかと思えます。
- ・最初の回は、緊張してしてしまい思ってたよりうまく話せなくて読者の方には申し訳無かったです。2回目は、1回・目よりは落ち着いて話すことが出来ましたが今度は時間がなくて質問に最後までお答え出来なかったので時間配分が本当に難しいと思いました。
- ・対話はできていたと思います。本として伝えたり教えているようで伝えられたり教わっているという感覚を多々味わっていました。ヒューマンライブラリーは本当に学びが深いと思っています。

イベント運営やスタッフに関するご意見がありましたらお願いします。

- ・安心してお話を進められました。ありがとうございます。
- ・ありがとうございました。
- ・2回目の時に最初にスタッフの方がいらっしゃらなくて、初めて良いものか悩みました。時間になったので初めてしてしまいましたが。。時間になったら初めて良いのか悩むのでその辺を事前に連絡があれば良いなと思いました。
- ・オンラインでの強みですが、毎回録画していただき、その動画を後で限定公開などで閲覧できるようにしていただくと大変ありがたいです。どんな質問があつてどんな話をしたかを振り返れると気づきや学びがさらに深くなりますので(^-^)

イベント全体についてのフィードバックがございましたらご記入ください。

- ・アットホームな雰囲気イベントを進められていた印象を受けました。また、zoomを活用して国を越え簡単に人と繋がることのできることで、このような活動を引き続き継続、また増やしていただければ嬉しく思います。
- ・やはり、対面で出来たらと思いました。ただ、リモートだと遠方の方の参加もあり、それはとても有意義であったと思っています。なので岡先生が仰っていたように、ハイブリッドな形で出来たら良いなと思っております。
- ・手作りのイベントで、ほっこりしました。参加者の方がおっしゃっていた「マイノリティ」である私達を取り上げていただく貴重な機会であると思います。今後の継続を望みます。ぜひ来年も「本」として参加させてください。来月から現地（バングラデシュ（ロヒンギャ難民キャンプ））に参りますが、必要な情報等があればお知らせください。また、他の「本」・参加者の皆様に私の連絡先を共有くださいますとも構いません。皆様と引き続き、交流できればと存じます。
- ・今回本としてお話しさせて頂くのは2回目になりますが、今回も読者の皆さんに質問を頂き色々な気づきがありました。ありがとうございました。
- ・大学構内のWi-fiが使用できず大変だったかと思いますが、何が起こるかわかりませんので、大学構内の簡単なデモンストレーションを行うとよいかもしれません(^)

ヒューマンライブラリーに参加した感想について

先週ヒューマンライブラリーに参加していただいて、ありがとうございました。初めての参加ですが、いろいろな「本」を読んだり、「本」と話したりすることで、楽しかったです。

当日大谷さん、むねぞうさん、ひらりさん、小山さん、いくみさんの5人の本を借りさせてもらいましたが、深く考えさせたことがあります。

大谷さんといくみさんの話によって、やはり体の障害のある方に対して、対等に扱ってもらうことが大事だということがわかりました。そういう対等の感じからこそ、満足感が生じて、安心して心地よく自分の好きなことに夢中になることができ、大谷さんのような世界チャンピオンが生まれてきたし、いくみさんのように生活を楽しむことができたのではないかと思います。理想的過ぎかもしれませんが、やはり障害だけではなく、性別や年齢や国に関わらず、対等に扱ってもらうことこそみんな暮らしやすい社会を作り出せるのではないかと思います。それから、いくみさんの話では、時には自分をあまり無理させないほうがいいそうですが、「あっ、確かにそうだね」と思いました。世の中は自分に向いていることとそうではないことがあるんです。この短い人生でできるだけ好きなことをやって、好きな人と付き合ってもいいのではないのでしょうか。もちろん頑張ってもできることといくら頑張ってもできないことがあります。もしそれができる可能性があって、どうしてもやりたいことだったら、精一杯頑張ってもやり続けていきたいと思えます。

次に、むねぞうさんですが、本当に明るい人だなあと思いました。別にわかってくれない人がいてもそれでいいという姿勢に感心しました。実は自分の友達にもゲイやレスがいますが、最初知ったときは正直に言って、抵抗がありました。それはよくわからないから、変な人だと思っただけなんです。だんだん付き合っていくうちに、本当に一般人と同じで（もともと一般人ですが）、ただ同性を好きになっただけで、何の悪いことしていないのです。それ以来、周りにゲイやレスを軽蔑する人がいたら、必ずわかってもらうよう弁護するようになりました。ですから、むねぞうさんのその話を聞いて、「そうだね、わかってくなくてもいいじゃん。世界中の人がわかってくれるわけがないし。必ず自分を好きな人とそうではない人がいる。自分が無理させられたくないように、人を無理させるのは良くないね。このままでいいかな（でも、やっぱり言いたくなるね。じゃ、今度はやわらなく言おう）」と思いました。

あとは小山さんの話ですが、うつ病になったのは人間関係が築けなくて、心の話をする人がいなかったからだそうです。人間というのは一人では生きていけないものだから、人と話すことで、友達ができ、家族とより親しくなって、知らない人とコミュニケーションできてこそ、人と絆ができ、この世界と結びついて、心も人生も豊かになってくると思いました。

最後に、ひらりさんの話では、わかってくれる親友がかけがえのない存在だと深く感じました。本当の自分でいられるからです。それから、自分がトランスジェンダーかどうか気づきにくいので、学生時代からそういう教育をしたほうがいいのかなということも考えさせていただきました。

以上のように、本の皆さんのおかげで、人生について新しい考えをさせていただきました。同じ地球に住んでいると言っても、人生って人によってかなり違いますね。また来年参加させていただければ幸いです。今回は本当にありがとうございました。

ヒューマンライブラリー感想文

今回のヒューマンライブラリーでの、山口通さん、中嶋秀昭さん、むねぞうさんの3つの本との交流を通じて、考えたことや感じたことを以下にまとめていきたいと思う。

最初に私は、山口さんの講演を聞いた。山口さんは都立高校で教員として働いていたが、40代のときに網膜色素変性症を患い、中途失明した経験を持つ。全盲となり、教員を辞めようか悩んだものの、同僚からの励みやサポートを受け、教員復帰に向けてリハビリを繰り返し、再び教壇に立つことができた。全盲になってからは視界が真っ暗なため、細長いまたは円い形のマグネットの上を手探りで文字を書き、生徒に上手く書けているかどうかを確認しながら授業を行っていたと言う。教員としての職場復帰は不可能だと言う上司からの声もあったが、山口さんが言うには、同僚からの励みやアドバイス、そしてリハビリがあったからこそ教員の仕事を続けることができ、同僚とリハビリを支えてくれた方々には本当に感謝しているとのことだった。そうした話を聞き、どんな困難に直面したときでも、これができないと悲観するのではなく、まだ自分にはこれができるといった困難も自分の糧にする意識を持って生きていこうと思った。また、山口さんがパソコンの音声装置を使っていることを知ったとき、教育支援に所属している一生徒として、点字教科書や音声の自動文字起こし機能などの出版・開発に携わっている教育関連企業の活動内容を参考に、視覚・聴覚障害を持つ生徒や先生にはどういった支援ができるだろうか考えた。

続いて、ロヒンギャ難民の医療支援を行っている中嶋さんの講演では、ロヒンギャ難民キャンプがどのような環境であり、どのような健康問題が起こっているかを知った。バングラデシュでは、ミャンマー・ラカイン州から避難してきた約90万人ものロヒンギャ難民が不安定な仮設住居で生活しており、トイレや水場などは共用であり、衛生環境は良いとは言えない。中嶋さんによると、現在では、安くて健康に悪い食材を口にすることが多いことから非感染性疾患の発症数・死亡数が上昇しており、こうしたNCDsの発症数は低・中所得国で特に多い傾向にあるとのこと。また、難民キャンプでも新型コロナウイルスによる健康被害が報告されており、バングラデシュが後発開発途上国であることと難民であることから、ロヒンギャ難民のワクチン接種が遅れているようだ。そうした難民キャンプで、世界の医療団(Médecins du Monde)に所属している中嶋さんたち日本人スタッフは医療を施すだけでなく、基礎的な医療技術や災害に関する知識をロヒンギャの若者に教える活動も行っている。それは、今の若者がいつか自国に戻れた際に、暮らしていくための知識を身につけ、自分たちのコミュニティの中で医療体制や衛生環境を整えられるようにするためであるようだ。こうした説明の中で、私たちが普段当たり前のように知っている生活の術や基礎的知識をロヒンギャ難民のほとんどが全く知らない事実も紹介されており、自分がいかに日本という紛争も圧政もない環境で暮らしている幸せ者であるかを再認識し、募金やボランティアなど、彼らに役に立つことで自分にできることはないか考えた。

最後に、むねぞうさんからセクシャルマイノリティ、特にゲイであることを理由に味わった境遇や体験について学んだ。小学5年生のときに初めてゲイかもしれないと感じたのは、最初は憧れの人としての認識がやがて自分はその人が好きなのではないかという認識が変わっていったときであり、そのとき自分は普通ではないと感じたが、男性が好きであることが悪いことだとは思わなかったようだ。そして自分がゲイであると強く認識したのは、異性と付き合った際に違和感を抱いたときであったそう。むねぞうさんが、自分がゲイであるとカミングアウトした相手は姉と弟と親友の数人であり、その全員がありのままの自分を受け入れてくれたとのことだった。特に姉の反応が私には印象に残っており、それはむねぞうさんが告白できるほど姉を信用していることに安心したというものであった。教員を目指す私は、この先LGBTQである生徒と多く出会うだろうと

予想し、その子が自分にカミングアウトしたときはどう受け答えするのがその子にとっての正解なのか分からない。また、むねぞうさんの口から、自分がセクシャルマイノリティといったようにカテゴライズされることが嫌いであり、LGBTQ に対する制度的不備が多いことを聞いた。そのことから、LGBTQ も同じ人間であるという認識が重要であり、異性同士の結婚を前提としている婚姻届けなど、差別や偏見を生み出す要因である今の制度を見直す必要があると感じた。

以上が、今回のヒューマンライブラリーに参加した感想である。

自分の知らない世界を学び、今の自分に何ができるのかを考える機会となったので、この課外活動に参加できたことを嬉しく思う。ヒューマンライブラリーの開催に携わった方々に感謝申し上げたい。

スタッフ感想

次世代日本型教育システム研究開発専攻 2年

江口 典子

今年もヒューマンライブラリー（以下 HL）の企画・運営に関わることができて、とてもいい経験をさせていただきました。昨年の反省を生かし、今年も新しい「本」の方の参加を目指したことについても書かせて頂きたいと思います。

昨年度は数名の「本」の方をお願いしましたが、いい返事を頂けなかったことがありました。自分のことについて語ることの難しさを理解しておらず、配慮が足りなかったのだと思います。また語りについてどのようなことを話すかということにも寄り添っていなかったことを反省しました。今年度はこのようなことに配慮しつつ、本の方が話せることを丁寧に聞き出しながら、一緒に会を作っていくには何が必要かを考えるようにしました。また、報告書やチラシを見てもらうことで、活動の意義を少しでも伝わるよう工夫しました。声掛けをしてから、チャットやメールでのやり取りを繰り返し、本の方の負担を減らしつつ、自分自身でも HL やライフストーリー研究についても調べ、HL について改めて自分でも考えるようになりました。個人の語りを聞くことで、その人を取り囲む社会関係性、生き方や生活の「社会的現実」をより真実味のあるものとして理解できるのだと思いました。個人の語りのおもしろさにも気づき、自分自身が HL の意義を強く感じました。自分で調べることも大切ですが、「対話」から積み上げていくことには、1人ではできない貴重な学びがあると感じています。

HL は身近なところから、より生きやすい社会を目指す活動でもあり、教育には大切な要素であると感じています。教育機関での研究は様々な形で社会に還元し、よりよい社会を作るために貢献できるものであって欲しいと思います。私自身の研究と HL は違うのですが、広義に考えると、HL で読んだ本が影響することもあり、大学での活動として HL があることは大きな意味があるものだと感じています。

今年も多くを語り聞き、参加者の声を聞くことで多くの気づきを得ることができました。オンライン開催ということで、海外からもご協力頂くことができ、オンラインの良さも活かしたのではないかと感じています。「本」が語る「社会的現実」を聞くことで、自分とは違う「社会的現実」について知り、本が大切にしてきた貴重な経験を聞くことで、個から個へと大切なものが受け継がれていると感じることもできました。個人の人生、生活、生き方について、口述されることで、読んで得られることとはまた違う良さも感じることもできました。

ご協力くださいました本の皆様、一緒に学びを深めてくれた読者の皆様、この活動を一緒に支えてくださった司書（スタッフ）の皆様、HL を主催していただきました岡先生、金子先生、本当にありがとうございました。大学での HL がいつまでも続いてくれること、また他の場所でも HL が広がっていくことを心から願っています。

今回私は、ヒューマンライブラリーに読者としても、スタッフとしても初めての参加をしました。本の方々から、こうした機会でないといけないお話が伺えたのが貴重な経験であったと感じます。私はスタッフだったので他の読者の方の質問事項を優先してセッションを進めていましたが、自分が抱く質問と他の読者の方が抱く質問がそれぞれ異なっていて興味深く思いました。違う人間が考えていることだから当たり前のことなのですが、いつもは「質問はありますか?」といわれて自由に質問をする側だったので、主催や運営をする立場から関わると見えてくる世界が違いました。こうした視点の転換は新たなものを見たり考えたりしようとするときの、重要な観点だと捉えるきっかけになったと思います。

来年度もスタッフとしてのお手伝いをし、様々な方のお話を聞いたり対話をしたりして価値観を広げていきたいと思っています。参加してくださった本・読者の皆様、そしてスタッフの方々・先生方、このような機会に関わらせていただきありがとうございました。

ヒューマンライブラリー

初めてのヒューマンライブラリーでボランティアをしてみて、実際に何かを体験している人の話を聞く場というのも中々ないため、面白い取り組みだなと思ったのと聞いている方も話している方も興味があって参加した人たちなので楽しそうに聞いたり話したりして相手の話から何かを得ようとしたり話して何かを伝えようとしているのが見ていて伝わってきた。普段、誰かの人生について知る機会は本や映画、テレビなどでしかないから本人から話を直接聞け、その人が本になる発想も実際の活動もたくさんの学びがある者ものになっていると思った。

私が今回、ヒューマンライブラリーのスタッフとして様々な人の話を聞いたり手伝う中で話したりして気がついたのは本の方が今回テーマとして話してくださったような出来事やきっかけがあってから自分らしい生き方や自己理解、丁寧に生きることをして、それを本人も誇りに思っていて人としても大切な事だと言う事だ。しかし、それは多くの人が気づかずに自分や人生、様々なものをないがしろにして生きてしまっていて、今の社会では何か壁にぶつかったり体調を崩してしまったりそのままでは生きていけなかったりしないと気づかない事であるが、誰にとっても必要な生き方でこんな風に話す機会があったらみんなに大切な生き方に気づいてもらう事ができるのかなと思った。

これらのように多くの人の発信と学びの場になったヒューマンライブラリーのボランティアをして来年も多くの人に快適な発信と学びをしてもらえるよう、お手伝いしつつ、私自身もいろいろ学ばせてもらいたいと思った。